

【公報種別】 実用新案法第 14 条の 2 の規定による訂正明細書等の掲載

【部門区分】 第 1 部門第 2 区分

【発行日】 令和 1 年 12 月 5 日 (2019.12.5)

【登録番号】 実用新案登録第 3218912 号 (U3218912)

【訂正の登録日】 令和 1 年 8 月 23 日 (2019.8.23)

【登録公報発行日】 平成 30 年 11 月 15 日 (2018.11.15)

【出願番号】 実願 2018-3460 (U2018-3460)

【国際特許分類】

A 4 7 C 21/02 (2006.01)

A 4 7 G 9/02 (2006.01)

【F I】

A 4 7 C 21/02 Z

A 4 7 G 9/02 Q

【訂正書】

【提出日】 令和 1 年 7 月 9 日 (2019.7.9)

【訂正の目的】 実用新案登録請求の範囲の減縮、及び明りょうでない記載の釈明

【訂正の内容】

【考案の名称】 敷きパッド

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、布団またはベッドに着脱自在に取り付けられる敷きパッドに関する。

【背景技術】

【0002】

特許文献 1 に記載の考案は、ベッドパッドの四隅部の一方の側辺に帯状片の 1 端を取付け、この帯状片をマットレスまたは敷布団の角部下面へ巻き付けるようにしてくぐらせた状態で、その先端を、ベッドパッド四隅部のコーナーを挟んだ他方の側に取り付けた帯状片または係止部に係合させて、前記ベッドパッドをマットレスまたは敷布団に装着するようにするベッドパッドである。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】 実登 3057861 号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、特許文献 1 に記載の考案は、ベッド用のマットレスのような厚さを事前に把握できる場合には、ベッドパッドをベッドに係止する帯状片のボタンとボタン穴に係合する位置をあらかじめ計測しておくことにより、ボタンとボタン穴の位置を一致させることができるが、厚さを事前に把握できないマットレスや、敷き布団のようにいろいろな厚みがあるものと係止する場合には、ボタンとボタン穴の位置をあらかじめ定めておくことができず、そのような場合には不十分なものであった。

【0005】

とりわけ、帯状片が布製の場合には、一般的には布の伸縮性が十分ではないので、ボタンとボタン穴とを係合させようとしても帯状片の長さの調節ができず、係合が困難であった。

【0006】

このような不都合を避けるため、帯状片に伸縮性のあるゴムバンドを用いると、ベッド

パッドをマットレスや敷布団に装着して使用する際に、ゴムバンドを強く引っ張って係止したり、マットレス等に装着された後は、使用中、常に強く引っ張られた状態にあるため、使用による疲弊によりゴムバンドの弾性が比較的短い期間で失われ、すぐに伸びきってしまったり切れたりして使いものにならなくなる等の欠点があった。

【0007】

敷きパッドは、人体の直下に敷いて使用するものであり、季節の変化や気温に応じて、冬は暖かく、夏は涼感が得られるなど、より快適な睡眠を得るために用いられる。一方、睡眠中の発汗作用による汗を大量に吸収するため、衛生的に管理する必要がある、洗濯や乾燥は欠かせない。洗濯や乾燥の都度、敷きパッドをマットレスや布団から着脱する作業は煩雑であるため、敷きパッドを係止する手段は操作がしやすく、しかも耐久性のあるものが求められる。

【0008】

そこで、本考案は上記問題に鑑み、様々な規格のマットレスや敷布団などとの着脱作業を容易にし、耐久性にも優れた敷きパッドを提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0009】

上記課題を解決するために、請求項1に記載の考案は、布団やベッドの上面に載置される敷きパッドであって、パッド体と、伸縮性を具備するゴム帯、または布帯であって、一方の端部が前記パッド体の相互に対向する一対の第1辺の内の一つの辺、および他方の端部が前記第1辺に隣接して相互に対向する一対の第2辺の内の一つの辺に固設されることにより、前記パッド体の各々の角部に架設される、複数本の取付帯と、前記取付帯の各々に設けられ、少なくとも一対の互いに係脱自在な雄要素および雌要素を有する留具と、を備え、前記取付帯の各々の全長が前記端部の距離より長く設定され、前記雄要素と雌要素が非係止状態では、前記取付帯を前記パッド体の面に対して弧状に配置することができることを特徴とする。

【0010】

上記考案において、前記取付帯は、例えば、一方の端部が前記パッド体の前記第1辺に、他方の端部が前記第2辺に固設されることにより、前記取付帯は、前記パッド体の裏面の4隅に、前記パッド体のコーナーを挟んで隣り合う二辺にまたがって斜めに架設され、前記パッド体の4隅に弧状に設けられる。前記弧状の取付帯を布団やベッドの長手方向の辺および短手方向の辺に係合させることで、本考案の敷きパッドを布団やベッドと係合させることができる。

【0011】

上記考案において、前記取付帯は伸縮性のあるバンドが好ましいが、それ以外のものであってもよい。伸縮性のあるバンドは、布団やベッドの厚さに対する敷きパッドの適合性を向上させるとともに、前記パッド体を布団やマットレスに係合する際の操作性を向上させ、作業内容の軽減と作業時間の短縮に資する。

【0012】

上記考案において、前記留具は、前記取付帯に複数設けることが好ましい。前記留具を複数設ける場合は、前記取付帯の長手方向の延長を多段階に調整することができ、取付帯の伸縮性に頼らずに取付帯の長さを調整することができる。

【0013】

請求項2に記載の考案は、布団やベッドの上面に載置される敷きパッドであって、パッド体と、伸縮性を具備するゴム帯、または布帯であって、前記パッド体の相互に対向する一対の第1辺にそれぞれ端部が固設されるか、または前記第1辺に隣接して相互に対向する一対の第2辺にそれぞれ端部が固設されることにより、前記パッド体の前記第1辺及び第2辺に、各々が架設される、複数本の取付帯と、前記取付帯の各々に設けられ、少なくとも一対の互いに係脱自在な雄要素および雌要素を有する留具と、を備え前記取付帯の各々の全長が前記端部の距離より長く設定され、前記雄要素と雌要素が非係止状態では、前記取付帯を前記パッド体の面に対して弧状に配置することができることを特徴とする。

【0014】

上記考案において、前記取付帯のそれぞれの端部が前記パッド体の相互に対向する辺に固設されることから、前記取付帯は、前記パッド体の裏面の長手方向または短手方向に平行に架設される。

【0015】

上記考案は、前記パッド体を取り付ける布団などの面積が小さいか、厚さが薄い、構造が柔軟かなどの理由により、布団などの4隅のコーナー部が前記パッド体を十分に保持できない場合にも、前記パッド体と布団などを安定して係合させることができる。

【0016】

請求項3に記載の考案は、前記留具が前記取付帯の裏面にて係脱することを特徴とする。前記留具を前記取付帯の裏面で係脱することにより、敷パッドを布団やマットレスに着脱する際の操作性を向上させ、作業内容の軽減と作業時間の短縮を図ることができる。

【0017】

請求項4に記載の考案は、前記留具がスナップボタンであることを特徴とする。前記スナップボタンの雄要素と雌要素とが前記取付帯の長手方向において離間して設けられる。前記スナップボタンは、前記雄要素と前記雌要素の係脱が容易で、敷パッドを布団やマットレスに取り付ける際の作業内容の軽減と作業時間の短縮を図ることができる。

【0018】

上記考案において、前記雄要素と前記雌要素との離間距離は、前記スナップボタンの前記雄要素と前記雌要素の数により異なる。例えば、一対のスナップボタンを設ける場合は、前記雄要素および前記雌要素の間隔は、例えば、前記取付帯の長さ方向の距離の30～60%、好ましくは40%～50%の間隔で設ける。二対のスナップボタンを設ける場合は、前記雄要素および前記雌要素の間隔は、一対目は前記取付帯の全長（長さ方向の端部6間の距離）の30～60%、好ましくは40%～50%の間隔で設ける。二対目は前記取付帯の全長（長さ方向の端部6間の距離）の10～25%、好ましくは15%～20%の間隔で設けることが好ましい。

【考案の効果】

【0019】

以上のとおり、本考案によると、厚さや大きさなど様々な規格のマットレスや布団に対しても着脱作業が容易で、作業内容の軽減と作業時間の短縮を図ることができ、また耐久性にも優れた敷きパッドを提供できる。

【図面の簡単な説明】

【0020】

【図1】本考案による実施例1の敷きパッド1を布団・マットレス5に取り付けた状態を示す斜視図である。使用面を下側に示している（以下、特に断りの無い限り同様である）。

【図2】同実施例の敷きパッド1の平面図である。

【図3】本考案による実施例1および実施例2の敷きパッド1および201の断面図である。

【図4】本考案による実施例1の取付帯3の拡大図である。

【図5】同実施例の取付帯3の係合状態を示す拡大図である。

【図6】本考案による実施例1および実施例2の取付帯3および203の係合状態を示す断面図である。

【図7】本考案による実施例1の取付帯3に複数のスナップボタン4を設けた状態を示す拡大図である。

【図8】本考案による実施例2の敷きパッド201を布団・マットレス205に取り付けた状態を示す斜視図である。

【図9】同実施例の敷きパッド201の平面図である。

【考案を実施するための形態】

【0021】

本考案の好適な実施例 1 による敷きパッド 1 について図 1～図 7 を参照して説明する。敷きパッド 1 は、図 1～図 4 に示すとおり、柔軟な布地からなるパッド体 2 と、パッド体 2 の 4 隅のコーナーに架設される 4 本の取付帯であるゴム帯 3 と、ゴム帯 3 の各々の裏面に設けられる留具であるスナップボタン 4 とを備えた敷きパッドで、布団・マットレス 5 に戴置して使用する。以下、各部について説明する。

【0022】

パッド体 2 は、図 1 に示すとおり、布団・マットレス 5 への取付け状態において布団・マットレス 5 の少なくとも上面（図 1 における底面）を被覆する大きさのものである。本実施例では 100×205 (cm) を例示するが、使用する布団・マットレス 5 の大きさに応じて適宜選択し得るものである。パッド体 2 は、図 2 および図 3 に示すとおり、人体との接触面となる表地 21 と、布団・マットレス 5 との接触面となる裏地 22 と、これらの間に充填される中綿 23 と、縁取りをするバイアステープ 24 とを備える。図示は省略するが、表地 21、中綿 23、裏地 22 は、使用による生地がずれが生じないよう一体的にキルティング加工を施してある。表地 21 はナイロンを、裏地 22 はポリプロピレンを、中綿 23 はポリエステルを例示できる。その他の材質として、綿、絹、麻、ウール等の天然繊維やアクリル、レーヨン等の合成繊維を用いることができる。また、季節によって好適な素材を用いることができる。例えば、夏期には接触冷感素材を、冬季には吸湿発熱素材を用いることができる。また、生地としてガーゼ、タオル地、起毛生地、ワッフル織、ちりめん、またはその他の織物、編物、不織布等の布帛を用いることができる。

【0023】

ゴム帯 3 は、図 2 に示すとおり、パッド体 2 の相互に対向する一対の第 1 辺のいずれか一辺および第 1 辺に隣接して相互に対向する一対の第 2 辺のいずれか一辺の midpoint から架設されるコーナーに近い位置に、ゴム帯 3 のそれぞれの端部 6 が縫合して固設され、パッド体 2 の裏地 22 側に架設される。端部 6 は四隅から辺長の 25%～40% が例示される。ゴム帯 3 の端部 6 は、裏地 22 とバイアステープ 24 との間に挟持して縫合される。ゴム帯 3 は、パッド体 2 の裏面に、4 隅のコーナーを挟んで隣り合う二辺にまたがって架設される。パッド体 2 の 4 隅に、弧状のゴム帯 3 が設けられ、パッド体 2 の一部とゴム帯 3 から環状体が構成される。ゴム帯 3 の全長は、接続する一対の端部 6 の距離よりも長く設定されているので、スナップボタン 4 が係合するときには、ゴム帯 3 に環状の余剰部分 7 が生じる。ゴム帯 3 の全長に対する、端部 6 間の距離の比率は 30%～60%、好ましくは 35%～55% の間の適宜の数値が例示される。ゴム帯 3 を布団・マットレス 5 の隣り合う長手方向の辺および短手方向の辺と係合させることで、敷きパッド 1 と布団・マットレス 5 とを係合させる（図 1）。

【0024】

本実施例では、取付帯にゴム帯を例示したがこれに限らず、伸縮性を有する布帯を用いることができる。また、伸縮性を有しない布帯を用いてもよい。

【0025】

留具としてのスナップボタン 4 は、図 6 に示すとおり、互いに係脱自在な雄要素 41 および雌要素 42 からなる押留ボタンである。雄要素 41 および雌要素 42 は、その係合部がゴム帯 3 の裏側において端部 6 から適宜、離間して設けられる（図 2）。例えば、端部 6 と雄要素 41 の間隔 17 cm、端部 6 と雌要素 42 の間隔 17 cm、雄要素 41 と雌要素 42 の間隔 32 cm である。雄要素 41 と雌要素 42 を係合した状態では、ゴム帯 3 に余剰部分 7 が生じる。本実施例では雄要素 41 および雌要素 42 の間隔は、適宜ゴム帯 3 の伸縮力等に合わせて、ゴム帯 3 の全長に対する適宜の割合、例えば、30～60%、好ましくは 40%～50% の間隔で設ける。本実施例では、1 本のゴム帯 3 に対して一対の雄要素 41 および雌要素 42 をそれぞれ 1 つずつ設けているが、雄要素 41 または雌要素 42 のいずれか一方、または両方をゴム帯 3 の長さ方向において複数個設けてもよい（図 7 参照）。複数個設けることでゴム帯 3 の長さを多段階に調整でき、パッド体 2 を装着できる布団・マットレス 5 のサイズに対する許容度が増す。雄要素 41 および雌要素 42 の間隔を異ならせてもよい。例えば、図 7 に示す通り、二対のスナップボタン 4 を設ける場

合の雄要素４１および雌要素４２の間隔は、一対目はゴム帯３の全長（長さ方向の距離）の３０％～６０％、好ましくは４０％～５０％の間隔で設けることが好ましく、二対目はゴム帯３の全長（長さ方向の距離）の１０～２５％、好ましくは、１５％～２０％の間隔で設けることが好ましい。

【００２６】

本実施例では、留具としてスナップボタンを例示したがこれに限られず、面ファスナーを用いてもよい（図示しない）。面ファスナーは、互いに係脱自在な留具の雄要素および雌要素からなる。雄要素および雌要素は取付帯の裏側において、所定の間隔をもって設けられる。このほか留具は、カギホック、ボタン、ホックなどを使用してもよい（図示しない）。留具として面ファスナーを用いると、取付帯の長さを無段階に、より広範囲の長さに調整でき、使用者の希望に応じてより細かく調整することができる。

【００２７】

本考案の実施例１による敷きパッド１の使用について説明する。図１は、敷きパッド１の使用状態を使用面を下側にして示している。敷きパッド１を布団・マットレス５に取り付ける際、敷きパッド１を布団・マットレス５の上面に戴置し、パッド体２の４隅に弧状に設けたゴム帯３を布団・マットレス５の４隅のコーナーに潜らせて、弧状のゴム帯３を布団・マットレス５の隣り合う長手方向の辺および短手方向の辺に係合させてパッド体２を布団・マットレス５に取り付ける。

【００２８】

敷きパッド１を取り付ける前に、あらかじめゴム体３に設けたスナップボタン４の雄要素４１および雌要素４２を解除しておく（図２）。これによりゴム体３に十分な延長を確保することができ、ゴム体３を布団・マットレス５の４隅のコーナーに取り付ける際に、ゴム体３の輪になった部分を強く引っ張って係止する必要がないため、ゴム体３が、取り付けの際に疲弊して伸びきってしまったり、切れたりして使いものにならなくなったりする恐れがない。

【００２９】

ゴム体３の輪を布団・マットレス５の４隅のコーナー下面をくぐらせた後に、留具のスナップボタン４の雄要素４１および雌要素４２を嵌合することで、環状の余剰部分７が設けられ、ゴム体３の弾性を活かし、また強い引っ張りによる疲弊を防ぎながらパッド体２を布団・マットレス５に係止する。図１ではスナップボタン４の雄要素４１および雌要素４２が嵌合する位置は、布団・マットレス５の下面を例示するが、布団・マットレス５の側面であってもよく、適宜操作のしやすい位置に配置してよい。

【００３０】

敷きパッド１を布団・マットレス５から取り外す際には上記と逆の手順で行う。この際にも留具のスナップボタン４の雄要素４１および雌要素４２の係合を解除することで、ゴム体３に十分な延長を確保することができ、ゴム体３の輪になった部分を強く引っ張って取り外す必要がないため、敷きパッド１を取り外す際にゴム体３が、疲弊して伸びきってしまったり、切れたりして使いものにならなくなったりする恐れがない。

【００３１】

敷きパッド１は、人体に直接触れるため、汗などによる汚れが避けられない。このため、衛生的に使用するためには頻繁な洗濯が必要であるが、敷きパッド１の布団・マットレス５への取り付けおよび取り外しの際にゴム体３にかかる負荷を、留具のスナップボタン４の雄要素４１および雌要素４２の解除により容易に軽減でき、敷きパッド１自体の寿命も長くなり、経済的である。また、より厚みのある布団やマットレスに使用する場合には雄要素４１および雌要素４２を解除したままにしておけば、装着中（使用中）にもゴム体３にかかる負荷を軽減できる。

【００３２】

本実施例では、ゴム体３の留具のスナップボタン４の雄要素４１または雌要素４２を一対設ける場合を例示するが、スナップボタン４の雄要素４１または雌要素４２のいずれか一方、または両方を複数個設けてもよい（図７）。複数個設けることで、ゴム体３の延長

を簡単に、最適の長さに調整できる。敷きパッド1が布団・マットレス5に装着されている間も、ゴム体3が常に強く引っ張られる状態を避けることができる。このため、ゴム体3の弾性が長期間維持でき、経済的である。

【0033】

また、長期間の使用によりゴム帯3がヘタってしまった場合にもヘタリに合わせてゴム帯3の長さを短くすることができる。ゴム帯3の長さの調整は、スナップボタン4の係脱というワンタッチにより簡単に行うことができる。

【0034】

本考案の実施例1による敷きパッド1の効果について説明する。敷きパッド1は、ゴム帯3の留具のスナップボタン4の雄要素41または雌要素42の係脱により布団・マットレス5への取付けを容易に行うことができ、作業内容および作業時間の軽減を図ることができる。

【0035】

また、スナップボタン4の係脱により、ゴム帯3の長さを段階的に調整することができる(図1および図2、図4～図7参照)。これにより、敷きパッド1の装着、取り外しの際のゴム体3への負荷、および、装着中のゴム体3への負荷をともに軽減でき、敷きパッド1自体の寿命も長くなり、経済的である。また、厚さの異なる布団・マットレス5についても容易に対応できる。

【0036】

また、長期間の使用によりゴム帯3にヘタリが生じてしまった場合は、ヘタリに合わせてゴム帯3を短くすることができる。これにより敷きパッド1を長期間使用することができる、経済的である。

【0037】

本実施例では、留具のスナップボタン4の雄要素41または雌要素42を一对設ける場合を例示するが、スナップボタン4のうち、雄要素41または雌要素42のいずれか一方、または両方を複数個設けることとすれば、ゴム帯3の長さ調整を多段階に行うことができ、厚さの異なる布団・マットレス5への装着の許容度がさらに増す(図7)。

【0038】

本実施例ではパッド体2を100×205(cm)の大きさとしたが、このような多段階の調整は、パッド体2を上記以外の大きさとして例えばダブルサイズの布団・マットレス5に用いる場合等にも好適である。また、ゴム帯3とパッド体2は、敷きパッド1が自然状態において平面状となり、収納に便利である(図2)。

【0039】

以下、本考案の実施例2による敷きパッド201について図3、図6、図8および図9を参照して説明する。各構成に付す符合は実施例1におけるものの200番台とし、実施例1と共通する点についてはこれを援用し、説明を省略する。

【0040】

実施例2では、ゴム帯203は、図9に示すとおり、パッド体202の対向する二つの辺にそれぞれ端部206が縫合して固設され、パッド体202の裏地側に架設される。ゴム帯203の端部206は、裏地222とバイアステープ224との間に挟持して縫合される。ゴム帯203はパッド体202の二つの対向する端辺に架設されることにより、弧状に設けられる。ゴム帯203は互いに離間しつつ平行に設けることが好ましい。本実施例ではゴム帯203は3本設けられるが、2本でも、4本以上でもよい。

【0041】

布団・マットレス205の面積が小さいか、厚さが薄い、構造が柔軟かなどの理由により、ゴム帯203を布団・マットレス205の4隅のコーナー下面に潜らせてパッド体202を取り付けた場合に、横臥する人が寝返りをうつなどした際に、布団・マットレス205の4隅のコーナー部がパッド体202を保持できないことがある。実施例2は、このようなときに、パッド体202の二つの対向する端辺に架設された弧状に設けられたゴム帯203を布団・マットレス205の下面に潜らせてパッド体202を取り付けること

により、布団・マットレス２０５の全体でパッド体２０２を保持することができ、パッド体２０２のずれを防ぐことができる。

【００４２】

敷きパッド２０１は、敷きパッド２０１の使用面を下にして床に置き、架設された弧状のゴム帯２０３を広げて、パッド体２０２とゴム帯２０３で構成される環の中を布団・マットレス２０５を通して布団・マットレス２０５に取り付けてもよい（図８および図９）。

【００４３】

敷きパッド２０１を取り付ける前に、あらかじめゴム体２０３に設けたスナップボタン２０４の雄要素２４１および雌要素２４２を解除しておく（図９）。これによりゴム体２０３に十分な延長を確保することができ、布団・マットレス５をパッド体２０２とゴム帯２０３で構成される環の中に通す際の操作がしやすくなる（図８）。

【００４４】

布団・マットレス２０５のサイズが小さい場合は、スナップボタン２０４の雄要素２４１および雌要素２４２を嵌合し、ゴム帯２０３の長さを短くして使用する。

【００４５】

以上、本考案は上記実施例に限定されるものではなく、本考案の技術的範囲に属する限り種々の形態を採り得るものである。また、本考案の技術的思想を逸脱しない範囲において、改変等を加えることができるものであり、それらの改変、均等物等も本考案の技術的範囲に含まれることとなる。

【符号の説明】

【００４６】

- １、２０１・・・敷きパッド
- ２、２０２・・・パッド体
- ２１、２２１・・・表地
- ２２、２２２・・・裏地
- ２３、２２３・・・中綿
- ２４、２２４・・・バイアステープ
- ３、２０３・・・ゴム帯
- ４、２０４・・・スナップボタン（留具）
- ４１、２４１・・・雄要素
- ４２、２４２・・・雌要素
- ５、２０５・・・布団・マットレス
- ６、２０６・・・端部
- ７、２０７・・・余剰部分

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項１】

布団やベッドの上面に戴置される敷きパッドであって、
パッド体と、

伸縮性を具備するゴム帯、または布帯であって、一方の端部が前記パッド体の相互に対向する一対の第１辺の内の一つの辺、および他方の端部が前記第１辺に隣接して相互に対向する一対の第２辺の内の一つの辺に固設されることにより、前記パッド体の各々の角部に架設される、複数本の取付帯と、

前記取付帯の各々に設けられ、少なくとも一対の互いに係脱自在な雄要素および雌要素を有する留具と、を備え、

前記取付帯の各々の全長が前記端部の距離より長く設定され、前記雄要素と雌要素が非係止状態では、前記取付帯を前記パッド体の面に対して弧状に配置することができる敷きパッド。

【請求項２】

布団やベッドの上面に戴置される敷きパッドであって、

パッド体と、

伸縮性を具備するゴム帯、または布帯であって、前記パッド体の相互に対向する一对の第1辺にそれぞれ端部が固設されるか、または前記第1辺に隣接して相互に対向する一对の第2辺にそれぞれ端部が固設されることにより、前記パッド体の前記第1辺及び第2辺に、各々が架設される、複数本の取付帯と、

前記取付帯の各々に設けられ、少なくとも一对の互いに係脱自在な雄要素および雌要素を有する留具と、を備え、

前記取付帯の各々の全長が前記端部の距離より長く設定され、前記雄要素と雌要素が非係止状態では、前記取付帯を前記パッド体の面に対して弧状に配置することができる敷きパッド。

【請求項3】

前記留具は、前記取付帯の裏面にて係脱する請求項1または2に記載の敷きパッド。

【請求項4】

前記留具は、スナップボタンである請求項1ないし3のいずれかに記載の敷きパッド。